

学位論文審査の要旨

学位申請者	金子 貴美 理学専攻 2014年度生		論文題目	日本語談話関係認識のための理論とコーパス構築
審査委員	主査:	戸次 大介 准教授	インター ネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 可
	副査:	小林 一郎 教授		「否」の場合の理由
	副査:	浅井 健一 准教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	小口 正人 教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	峯島 宏次 特任准教授		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (理学) (Ph. D. in Computer Science)			<input type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
				<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

自然言語処理研究の究極的な目標の1つは「計算機に文章・文脈を理解させること」である。文章は、それを構成する各文を意味解析しただけでは導出できない、文間の構造に関わる意味を持っているため、上記目標を実現するには、文間や節間にある意味的な繋がり関係を解析する必要がある。このような、文や節といった談話片間の意味的關係のことを談話関係と呼ぶ。談話関係と時間関係は相互に依存しているため、そのような依存関係を考慮して談話関係の定義がなされるべきである。しかしながら、談話関係に関するいずれの先行研究も、談話関係と時間関係の依存関係を反映した設計となっているとは言い難い。そのような設計ができていない一因として、いずれの先行研究も解釈が揺れる「話し手や書き手の意図に関する関係」と、解釈が一意に定まる関係とを十分に選り分けられていないことがある、と推察される。

上記の問題を踏まえ、金子さんの研究では、話し手や書き手の意図に関する関係と、解釈が一意に定まる関係とを選り分け、後者について、時間関係との依存関係を反映した談話関係の決定手順を確立することを目指し、談話関係を再定義している。具体的には、上記の実現のためにまず、出来事(eventuality)、モダリティ(modality)、時制(tense)、時間関係(temporal relation)と、談話関係との依存関係の整理を行い、それを元に談話関係の分類体系と客観的な談話関係の決定手順を定義する。その後、定義した分類体系と決定手順に従ってアノテーション実験を行い、一致率の算出やエラー分析を行うことにより、「解釈が一意に定まる関係のみに絞って談話関係を定義できたか」を検証し、談話関係の決定プロセスのどの部分を明らかにできたか、およびどの部分に課題が残るかについて詳細な議論がなされている。

研究内容については、次世代意味処理の重要かつ難解なテーマの一つである談話関係認識をターゲットとして設定したうえで、これまでの談話関係認識が基礎を置く諸談話関係理論と、それに基づいて構築された談話関係データセットの質は果たして十分かという問題提起を行い、独自の分析を加えた談話表示理論を提示したうえで、それに基づく談話関係データセットを構築する、という挑戦的なものである。以上を踏まえ、本審査委員会は本論文を、本学大学院人間文化創成科学研究科における博士(理学)、Ph. D. in Computer Scienceの学位を受けるに相応しいものと判断した。